平針の歴史についてのページ　　史跡編

１、針名神社（はりなじんじゃ）

延喜５年（９０５年）に醍醐天皇の命令で編纂が開始され、延長５年（９２７年）に完成した養老律令の施行細則「延喜格式」の中にある、全国の神社を調べ上げた、延喜式第九巻第十巻「神名帳」に「従三位針名天神」と記載がある神社がこの針名神社ではないかと考えられています。もしそうだとすると、平安時代前期には既に存在していたことになります。

天白川沿いの「元天神」小字でいうと「神田」あたりにあったものを、江戸時代に駿河街道建設・平針宿設置のため、平針村が平子山に移転したのに伴い、現在地に遷座しました。

社殿は昭和５１年（１９７６年）に鉄筋コンクリート造で造営されました。

御祭神は、尾治針名根連命（おわりはりなねむらじのみこと）と大己貴命（おおなむちのみこと、大国主命）と少彦名命（すくなひこなのみこと）と八幡社がお祀りされています。

「尾治針名根連命」は、尾張氏の一族です。「尾張氏」は、古墳時代に尾張国を統一した豪族で、天火明命（あめのほあかりのみこと）を祖神とし、建稲種命（たけいなたねのみこと）のとき、日本武尊（やまとたけるのみこと）の東征に参加して武功を上げ、妹の宮簀媛命（みやずひめのみこと）が妃となって草薙剣を預かり、尾綱根命（しりつきねのみこと）が
応神天皇から大臣（おおおみ）に任じられ、「尾張連（おわりのむらじ）」の姓を賜りました。
その尾綱根の子にあたる人が針名根命です。

八幡社は明治４２年（１９０９年）に、針名神社の隣なりに祀られていたものを、神社合祀令・一村一社制により合祀したものです。
摂社に、天王社、天神社、神明社、稲荷社があります。

境内は４Ha（１万２０００坪）あり、名古屋市内では熱田神宮に次ぐ広さです。

針名神社ホームページ
https://www.harina3.or.jp/

献燈

天王祭の様子

名古屋市内で唯一のスギの保存樹

令和

毎年１０月の例大祭。

駐車場内での盗難や事故、
トラブル等の責任は一切
負いませんので、お互いに
気を付けてご利用下さい。

２、秋葉山慈眼寺（あきばさんじがんじ）
言い伝えによれば、大同４年（８０９年）京都御所火災の折、秋葉三尺坊大権現が鎮火祈願のため上京した帰途にこの地へ立ち寄って休息し、「鎮防火燭」と石に爪で真筆を刻んだとの謂われから、この地にお寺が建てられたそうです。そのため「秋葉山休跡斎」とも呼ばれています。また、明治初年に遠江国秋葉山秋葉寺が火災にあった折、御本尊を一時ここに安置したことにより、「休跡斎」と呼ばれるようになった、という説もあります。
　秋葉堂には、織田信長寄進と伝わる「三尺坊御前立ち本尊」が祀られています。
　本堂は観音堂で、観世音菩薩が祀られています。

　境内には八代龍王堂、天狗堂、奥の院不動堂、御嶽講社などがあり、御嶽講の人々がお祭りに奉仕しています。
　火の神様、火災除けの神様として、以前は愛知県下の多くの地域から信仰を集め、御札を頂きに来る人々で賑わっていました。毎年１２月１６日の「火渡り神事」の日などは、観光バスで参拝に来る人々もいました。また２月には「湯祭り神事」も行われています。

平成十六年一月

火渡り神事（毎年１２月１６日）

伊藤萬蔵寄進の石柱。伊藤萬蔵は現一宮市出身で、江戸～昭和時代の実業家・相場師。全国の神社仏閣に石造物を寄進しました。

３、忠魂碑（ちゅうこんひ）・顕彰台（けんしょうだい）・戦没者墓苑
山県有朋筆の「征清紀念碑」を中央に、日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦・第二次世界大戦・太平洋戦争における平針地区から出征し、戦死・戦病死した人々を記念するために立てられました。墓地には特に太平洋戦争で戦死した人々が祀られています。
　また一角に、天白村で行われた陸軍大演習の時に飛行機が墜落して殉職した「小前特務曹長」の碑もあります。区画整理の時、天白川端から移設されました。

明治三十七年戰役紀念碑

４、伝小野田勘六の墓（おのだ　かんろく）

慈眼寺墓地の無縁塚に移設されています。小野田勘六は、戦国時代に平針城の城主でしたが、評判が悪く、村人に追放されたそうです。

平針城は、元小字、郷之島あたりにあったそうです。平城・館城で、規模は小さかったと思われます。

５、秋葉山下の石碑

平針に伝わっていた伝統芸能「棒之手」の師範たちの記念碑や、戦前に御料地を下賜して頂いた記念碑や、幕末に新用水を開削し、新田開発事業を行った「須賀弥蔵（すが　やぞう）顕彰碑」などが立ち並んでいます。

故須賀彌蔵君略德碑
貴族院議員正四位勲二等阪本釰之助題額
須賀彌蔵君以文政五年九月生于尾張國愛知郡平針村幼三十為里正兼
驛吏性敦厚勤倹竭力于公共事業能撫育貧民文久三年改修神田溝渠使
灌漑又排除瀦水得良田十數町村民稱其德元治元年改築秀傳寺佛殿
三間年而成一因君力衆喜而擬以古興開基此年代官許稱姓益賞君積年
之功績也慶應元年八月病歿享年四十有四法諡曰養保院仙翁良壽居士
今按君狀其德行實為一鄉之儀表村民樹碑以致追遠之誠可謂美舉矣
大正五年八月
愛知縣愛知郡長正六位勲四等内藤兼雄撰
從七位勲七等大島德大郎書

６、伝兵衛山墓地

江戸時代に平針村の庄屋を代々務めた、歴代村瀬伝兵衛（むらせ　でんべえ）のお墓があります。

村瀬家之墓

７、猫地蔵

前畑バス停付近にある祠。昔、猫背のお婆さんが、畑を耕していて土から掘り出した地蔵石を祀ったのが起源だそうです。

また別の話では、清三郎というお爺さんが、小高い山の麓を歩いていたところ、草むらの中に小さな石仏があるのを見つけ、村の人たちと相談して、その石仏までの道を付け、回りの草を刈り取り、きれいに地ならしをして、お花や水を上げてお参りをするようにしたそうです。その後、皆でお金を出し合ってお堂を建てて、石仏をお祀りしました。

ある日、怠け者の男がこの石仏に「俺は仕事が嫌いだが、仕事を怠けても、美味い物が食えて、お金が貯まるようにして下さい。」とお願い事をしたところ、祠の屋根の上から「ニャーゴー、ニャーゴー」というものすごい猫の鳴き声がしたので、男は慌てて家に逃げ帰り、妻に話したところ、妻から「そんなたわけたことをお願いすると、罰があたる。」と怒られました。男は「明日からは頑張って働きます。」と石仏に約束し、一生懸命働くようになりました。そのお蔭で、新しい家を建て直し、お金も貯まったということです。

それからこの石仏は、「猫地蔵」と呼ばれるようになったとのことです。

８、平針宿本陣跡（現平針旧公民館）

江戸時代初頭に徳川家康の命令で、岡崎から名古屋に通じる最短コースの「駿河街道」が建設されました。その街道に、伝馬（公用の荷物を運ぶリレー）と旅人に便宜を提供する宿場が平針村に開設されました。天白川沿いから、平子山と言われた丘陵地に村を移転して建設されました。その中心となるのが「本陣」で、身分の高い人の泊まる宿です。庄屋である村瀬伝兵衛の家に置かれました。

９、西町御嶽神社

西町公民館の隣りにある、「行者さん」と呼ばれる祠です。近所の人々の信仰を集めて、守られています。火の見櫓が設置されていました。

１０、和合山之碑（わごうやまのひ）

近代、この辺りは、亜炭（褐炭の一種で化石燃料）、京土（土壁に上塗りする黄色い建材）、磨き砂（洗剤、クレンザーの原料）という鉱物資源の産地として栄えました。「京土座」という芝居小屋・映画館もありました。

大正時代にその京土を掘っている穴が落盤事故を起こし、労働者が生き埋めになり死亡しました。この石碑はその供養塔です。立中墓地（たっちゅうぼち）にあります。

１１、長塚古碑（おさづかこひ）

　江戸時代に立てられた石碑で、三基あり「南無阿弥陀仏　正徳三年九月十五日　同行十二人」などと書かれています。区画整理前はもう少しこんもり高い墳丘になっていて、「古墳」と呼ばれて、触ると祟りがあるとされ、大事に保存されてきました。古墳と言っても古墳時代の古墳ではないと思われます。正徳３年とは、１７１３年、徳川家継が将軍の頃ですが、言い伝えによると、平安時代末期、京都で平治の乱が起こり、関東下野国の源氏方の武士２４名が駆けつけたところ、この地まで来て味方の敗報と主人源義朝殺害の情報に接し、無念にも全員切腹して果てたという話が伝わっています。この他にも小牧・長久手の戦いの時、羽柴秀吉方の兵が徳川勢に討たれた時の供養塔だという話もありますが、いずれも年代、人数が全く合わないため、正確なところは一切わかりません。

名古屋市
原宇都宮政協力委員長
村瀬富雄
天皇陵史研究会会長
浅井金松

１２、東山古碑（ひがしやまこひ）

元々、秋葉山の北麓に二基ありましたが、現在は立中墓地の長塚古碑の隣りに移設されています。「南無阿弥陀仏」「享保十五庚戌年」（１７３０年）などと書かれています。

これも由来は全くわかりません。案内の石碑に書いてある「仇討ちでもあったのだろう」とは推測です。

東山古碑

１３、道標地蔵（道分け地蔵）

平針西口交差点にあります。明和４年（１７６７年)、近藤佐太郎という人の寄進で立てられました。「右なごや道、左みやいせ道」と書かれていて、道の分かれ目に立地し、右へ行くと名古屋、左へ行くと東海道宮宿（熱田）さらに七里の渡しを通って、伊勢方面に向かう、と言うことを示す道しるべの石地蔵像です。伊勢神宮へのお蔭参りや、伊勢湾で取れた塩などの産物を山間部に運ぶため、多くの人が行き来したのでしょう。

１４、原観音堂

文献で確認できないため、削除。

１５、中山神社

天白公園東山ゾーンにあります。岐阜県恵那市にある中山神社より分祀された神社で、御祭神は「広国押武金日命（ひろくにおしたけかなひのみこと）」人皇第２７代安閑天皇です。

この御祭神が吉野金峯山より、山犬に乗って渡ってきたという伝承があり、山犬を神の使いとして崇め、「おいぬ様」と称して盗難・病難・災難除け、子宝に御利益があると言われています。

御造営記念碑
中山神社縁起
岐阜県恵那郡串原村、中山神社
より分祀された社であり祭神は
広国押武金日命（二十七代
安閑天皇）である。
当神社の祭神は、奈良県吉野
郡金峯山より犬に乗って渡っ
て来られたという伝承があり
古くより山犬を神の使いと崇
め「おいぬ様」と称しこの形
係を祀る信仰が行われ盗難・
病難・災難除け、子宝を祈っ
て霊験ありとされています。
平成十五年六月吉日

１６、荒木集成館（公益財団法人）

中平５丁目にある、私設の博物館です。昭和４５年（１９７０年）に故荒木実氏が千種区に開設しました。昭和５３年に財団法人として現在地に移転し、平成２５年に公益財団法人となりました。

１階は特別展用、２階の常設展示室は主に猿投古窯址群に先行する「東山古窯址群」の出土遺物を中心とした、旧石器時代から鎌倉時代までの考古資料が展示されています。

名古屋市博物館・見晴台考古資料館と並んで、この地域の考古資料の宝庫です。郷土史を学習される方は是非訪れたい場所です。

荒木集成館ホームページ
http://www.arakishuseikan.ecweb.jp/

１７、平針木遣音頭保存会（名古屋市指定無形民俗文化財）

「木遣り」とは、材木や石などの重い建材を運ぶとき、みんなで息を合わせるために歌った労働歌のことです。

平針の木遣り歌は、天下普請だった名古屋城築城の時、全国から集まってきた人足から、地元の人足が教えてもらったものが起源だと考えられます。

道行き歌・地搗き歌・手休み歌・座敷歌（京木遣り）の種類があり、往時は６６曲もあったそうです。現在は２３曲ほどが伝承されています。

地鎮祭、上棟式、祝い事の他、名古屋まつり・区民まつり・名古屋城まつりなどで発表されます。

毎月第一・第三土曜日に西町公民館で練習が行われています。

公式 You tube

https://www.youtube.com/@user-mc6cy7tg5u

公式ホームページ

https://hirabari-kiyariondo-hozonkai.jimdosite.com/

職人展

１８、荒池、大堤池、細口池

江戸時代に作られた、農業用の溜め池です。元々、水が流れ込む湿地のような場所だったのでしょう。堤防を築いて、水をせき止め、溜め池としました。宅地開発前は他にも、上ノ池・平池など、もっとたくさんの溜め池がありました。荒池は現在、立入り禁止。大堤池・細口池は公園となって、住民に親しまれています。

大堤池

荒池

１９、馬之塔（おまんと）・棒之手（ぼうのて）

　かつて平針には「馬之塔」「棒之手」という伝統芸能がありました。針名神社の祭礼の日には、馬の背中に飾り付けを乗せて「馬之塔」を奉納しました。「棒之手」は刀・槍・鎌で武装して戦いの形の演武を披露するものでした。いずれも戦後、断絶してしまいました。

「馬之塔」の飾り　（針名神社蔵）

氏子総代 村瀬
氏子総代 水野
氏子総代 村瀬光
氏子総代 中島
氏子総代 須賀一
氏子総代 水野
氏子総代 村瀬敏
氏子総代 佐久間貢
氏子総代 村瀬武司
氏子総代 浜浦隆
氏子総代 村瀬勝弘
氏子総代 村瀬富一
氏子総代 近藤金三郎
ひょうの笛

２０、祥雲山　秀伝寺　（曹洞宗）

戦国時代に開創された禅寺で、天正１７年に火災で焼失し、以後平針には菩提寺がなく、村人は赤池村の龍淵寺に頼んでいたようですが、慶長１７年に徳川家康の命令により、宿場を設置する交換条件として寺が再興されました。
御本尊の釈迦如来坐像と山門は江戸時代のもの。
太平洋戦争中の空襲により平針分教場とともに焼失しましたが、昭和２５年に仮本堂が再建され、平成２年に鉄筋コンクリート造りにより本堂が再建されました。

明応２年（１４９３年)、藤島（現日進市）龍谷寺二世古月宋栄によって開創
天正１７年（１５９０年）火災により焼失
慶長１７年（１６１２年）徳川家康の命令によって再興、龍谷寺七世満嶺徳充が住職
昭和２０年（１９４５年）３月太平洋戦争による米軍の空襲により焼失、御本尊・山門は残存
昭和２５年（１９５０年）建中寺塔司を譲り受け、仮本堂再建
昭和５０年（１９７５年）山門を現在地に移設
平成２年（１９９０年）新本堂、鉄筋コンクリート造りにより建立

本尊：釈迦牟尼仏座像　享保１０年（１７２５年）作成　京都仏師友学作　８１ｃｍ

主な行事
１月１１日　大般若会祈禱　大般若経を転読する
２月１５日　涅槃会　　釈迦の命日
３月彼岸　　春彼岸施食会　先祖供養の日
５月８日　　灌仏会　　釈迦の誕生日
８月１～５日　夜施食会　盆前の御霊供養
８月６・７日　盆施食会　御霊供養
９月２９日　両祖忌　曹洞宗の開祖道元と、布教をした瑩山紹瑾の祥月命日

祥雲山　秀伝寺

２１、一里塚跡

平針３丁目の街道沿いに、明治初年まで道の両側に一里塚がありました。道路拡幅工事のため撤去されました。
一里塚とは、旅人が歩いた距離を測るため、江戸日本橋を基点に、各街道１里（約４．５ｋｍ）ごとに、道の両脇に人口の小山を築いた目印です。てっぺんにはエノキなどの木が植えられていました。
駿河街道が東海道と分岐する宇頭から平針までは約７里、名古屋城下からは約４里の距離になります。
東隣の一里塚は、祐福寺（東郷町春木)、西隣の一里塚は八事（現桜誓願寺下）にありました。

２２、東の追分

岡崎街道（駿河街道）と飯田街道の分岐点です。交差点の名前は「平針南」です。
駿河街道は江戸時代の初めに徳川家康の命令で作られた、名古屋から岡崎に向かう街道。
飯田街道は江戸時代中期頃に作られた、平針で駿河街道から分岐し、赤池・浅田・伊保・枝下・足助・稲武を通って、信濃国（長野県）根羽・飯田・伊那を通って塩尻まで至る街道です。明治時代に名古屋から平針までも含めて「飯田街道」と呼称されるようになりました。
旧国道１５３号線に相当します。

２３、曲の手（かぎのて、クランク）

江戸時代の宿場町などでは、村の入り口を曲がりくねらせて、敵の侵入を遅らせる仕掛けが施されていました。平針宿の東のはずれにもそうした施設がありました。この小さい道がその遺構です。信号のある交差点からまっすぐ東へ延びる道路は、昭和時代になってバスを通行させるために作られた道になります。
駿河街道の本来の道は、こちらの狭い路地の方です。

参考文献

「愛知県史」
「新修　名古屋市史」
「天白村誌」
「天白地史考」浅井金松
「天白区の歴史」浅井金松
「続・天白区の歴史」浅井金松
「平針の文化財をさぐる」加藤賢市
「平針」平針小学校３０周年記念誌
「天白ガイドボランティア歴遊会　ガイドテキスト」黒川光雄 平成１６年
「和市・淳子の平針弁講座」中西和市・村瀬淳子　村瀬新聞店　２０００年初版
「平針木遣音頭歌詞集」
「日進町　梅森の歴史」梅森の歴史発行委員会　昭和６０年６月３０日
「三尺坊　秋葉信仰の根元」藍谷俊雄　秋葉山秋葉寺　１９９６年１月
「知多半島の地形・地質とその生いたち」牧野内 猛　名城大学理工学部教授
（「知多半島が見えてくる本 vol.2　～ビジターズ読本～」所収　２００２年発行　日本福祉大学
針名神社ホームページ
Wikipedia　「飯田街道」、「国道１５３号」
秀傳寺パンフレット
荒木集成館パンフレット
「平針学区の歴史を探る会」資料　箕浦隆
名古屋叢書続編第一巻「寛文村々覚書」P.59　第四巻「尾張徇行記」PP.３８７～３９２（天白図書館蔵）
「天白の今昔、江戸時代の平針」天白ガイドボランティア歴遊会　小島隆広

写真提供

連豊　村瀬敏治　愛知県陶磁美術館　天白区役所　針名神社　小島隆広